

会員発表、個人体験 2 題を含む 3 題

第 50 回愛知県柔道整復学会・第 84 回会員研修会

7 月 5 日 (日) 午前 10 時から 12 時 10 分まで、愛整会館にて第 50 回愛知県柔道整復学会・第 84 回会員研修会が開催され、勤務柔道整復師 5 人を含む 234 人が参加した。

学会では、会員本人の体験に基づく 2 題を含め、3 名の会員が以下の研究発表を行なった。

1. アキレス腱断裂の難治性の 1 症例 鎌田雅祐会員 (豊橋)

アマチュアボクシングの選手でもある発表者が自ら経験し、いずれも手術療法を選択した過去 3 回の同側のアキレス腱断裂について報告。3 度目の術後は競技復帰まで患部の状態をエコー観察しながら可動域訓練、筋力訓練等を行なうものの、現段階ではまだ筋力の回復には至っていないため、さらなる工夫が今後の課題であると述べた。



2. なんば歩行の一考察 竹内啓視会員 (半田)

発表者が平成 15 年より足袋と草鞋を履いて参加する地元の祭礼で、山車を曳いた後に第 1・2 中足趾節間関節に疼痛が発生するため、歩き方の工夫を試みた結果、同側の手足を一緒に出す「なんば歩行」で歩くと疼痛も少なく良好であったと、考察を加え報告。なんば歩行の有意性を示唆した。



3. 反復外力による膝痛の一考察 鶴舞支部 赤松徳浩会員

反復外力による膝痛に対して、疼痛自覚部位のみの施術と、大腿部に圧痛と硬結を認めた場合に、その部位に適切な強さの圧迫と除圧を繰り返した施術とを比較したところ、後者の有意性が認められた。疼痛自覚部位の近傍を注意深く観察し、所見 (圧痛、硬結) を有する部位への施術をすることが、疼痛改善に寄与することが示唆された。



11 時からの会員研修会では、日本福祉大学健康科学部リハビリテーション学科・理学療法学専攻教授で日本体育協会公認アスレティックトレーナー・マスター博士の小林寛和先生に「外傷予防の考え方 - スポーツ活動の現場から - 」と題して、多くの画像や動画を交えてご講演いただいた。

講演に先立って米田病院 米田 實先生が小林先生のご活躍を紹介され、森川会長が「小林先生には運動器の指導者として、われわれにうってつけの講演をして頂けるのでしっかり勉強していつてもらいたい」と挨拶した。



小林先生はラグビーを中心に、外傷予防のための競技種目特性や損傷の種類などを研究されている。外傷発生時には主訴と動作の関係を見極め、動的アライメントに着目して問題解決にあたらなければならない。競技特性に応じて補装具の使用を含めた運動療法などをプログラミングすることで、復帰時の動作を安全に遂行させていくことが重要であると述べられた。

Contact Sports では予防の結果が見えにくい、外傷の発生機序を分析することで

外傷数を減らすことが可能であるとして、タックルや Knee-in & Toe-out による外傷を予防するためのエクササイズなどを紹介された。

先生は最後に、ラグビー W 杯や東京五輪など、これからスポーツのビッグイベントがたくさん控えているので、外傷予防はますます重要であると結ばれた。

Welcome!! 新入会員

氏名	生年月日	支部	出身校	段位	趣味
片田江里香	S58.10.16	鶴舞	米田柔整	—	スポーツ
倉田 航	S58.2.9	笠寺	米田柔整	—	野球

受付で撮った 1 枚。親戚夫婦がデザインしてくれたので気に入っています。

片田会員



snapshot

名古屋軟式野球連盟所属の野球チームで投手として総合優勝決定戦に出場。完封勝利の優勝を報じたプレイボール誌の 1 枚。



倉田会員

7 月 5 日 (日)、愛整学会・会員研修会終了後の午後 2 時より本会講堂において、第 21 回東海 4 県役員合同協議会が開催され、各県役員 43 名が参加した。

東海 4 県役員合同協議会開催



協議会はあらかじめ提案された 4 項目の協議事項について、

それぞれの項目にグループ分けして各県役員が入り混じって話し合われ、その後、各グループの三重県役員がその結果を要約して発表した。

- (1) 公益会計の諸問題 公益事業と収益事業について
- (2) 会員の状況と新入会員の確保
- (3) 東海柔道大会のあり方について (参加料、保険料について)
- (4) 自賠責保険の対応、健保返戻申請書について

各県の公益事業比率や入会金、年会費、会員増減の推移や入会状況などが報告され、また各県個別のあるいはブロック共通の問題点が抽出された。その中で明らかになったのは、協議事項の多くは会員の収入減少に帰結することである。

公益事業の拡充には会費収入の維持・増加が必要不可欠であるが、どの県も会員数が横ばい状態にあり、療養費の返戻も多く算定も厳しくなっており、会費収入が減少している。会員増加対策のひとつに、会員予備軍となる会員施術所の勤務柔道整復師の確保があるが、その数は昔と比べはるかに少ない。会費収入の減少や勤務柔道整復師を雇用できないのは、個人の収入が減少していることにその原因がある。県によっては支出の大幅な見直しや、保険者への対応の強化、自賠責の取扱いにも取り組んでいるようだが、根本的な解決のためには、個人収入を増やしていくことに組織全体で取り組んでいくことが重要な課題のひとつであることが改めて実感された。

森川会長 日整理事に当選、広報部長に

日整通常総会

6 月 28 日 (日) 正午より日整会館において、全国から代議員 105 名 (うち代理人 1 名) が参集して日整通常総会が開催された。本会からは森川会長・両副会長・堀理事・小林理事の 5 名が出席した。

平成 26 年度の事業や決算など 4 議案が報告・審議され、すべて挙手多数で承認された後、第 5 議案として、選挙管理委員会の運営のもと役員選挙が行なわれた。

東海ブロック会から 4 県の代議員と会長の 11 名の推薦を受け、森川会長と伊藤宣人三重県会長が理事候補に立候補し、ともに過半数を獲得し当選を果たした。特に森川会長は、105 票中 83 票と、上位 3 番目の得票数で選任された。

さらに森川会長は、高得票であったことに加え、同じ東海ブロック会の永田官久前理事 (静岡県会長) の勇退により職責を継ぐ形で、一期目にして広報部長に抜擢された。

なお会長には伊藤鉄男会員 (東京) が再任され、副会長には松岡 保会員 (福岡) と萩原正和会員 (北海道) が選任された。

